

# 世界の文学とラテンアメリカ

★桜庭 一樹(さくらば かずき):作家。『赤朽葉家の伝説』で第60回日本推理作家協会賞(長編及び連作短編部門)受賞。『私の男』で第138回直木賞受賞。著書に『少女には向かない職業』『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』『少女七竈と七人の可愛そうな大人』『赤×ピンク』など。

★野谷 文昭(のや ふみあき):ラテンアメリカ文学研究者。著書に『ラテンにキスせよ』、『マジカル・ラテン・ミステリー・ツアー』、訳書にガルシア＝マルケス『予告された殺人の記録』など。

★沼野 充義(ぬまの みつよし):ロシア・東欧文学研究者。著書に『徹夜の塊 亡命文学論』『徹夜の塊 ユートピア文学論』、訳書にレム『ソラリス』など。

★柴田 元幸(しばた もとゆき):アメリカ文学研究者。著書に『アメリカン・ナルシス』、『翻訳教室』、訳書にオースター『幽霊たち』など。

## ◆アクセス

※地下鉄丸ノ内線・大江戸線「本郷三丁目」、南北線「東大前」下車、徒歩10分。  
※法文2号館は、東京大学正門から歩いて、正面の時計台のある安田講堂の手前右側の建物です。



## 現代文芸論研究室について

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/genbun/index.html>

### 教授スタッフ

(専任) 野谷文昭教授(ラテンアメリカ文学、2008年4月より赴任)  
(専任) 柴田元幸教授(翻訳論・広域英語圏文学)  
(専任) 沼野充義教授(世界文学へのアプローチ・ロシア東欧文学)  
(協力教員) 大橋洋一教授(英文、批評理論)  
(協力教員) 安藤宏准教授(国文、日本近代文学)  
(助教) 毛利公美(亡命ロシア文学)

現代文芸論研究室は、欧米近代の文学を中心に、世界の文学を広く現代的な観点から研究することをめざして、2007年4月に発足しました。いろんな言語・国の文学を幅広く読みたい、批評理論を通して文学を広く考えてみたい、複数の地域・言語間における文学の相互関係に興味がある……要するに、文学についてさまざまなことを考えてみたいと思っている人を「期待される学生像」とする学科です。特に大学院では、日本文学を世界文学の文脈において研究しようとする外国からの留学生も歓迎しています。

この研究室では、以下のような分野を積極的に扱います。

★現代世界の様々な言語文化(特にラテンアメリカの文学、広域英語圏文学、ヨーロッパ周辺の文学) ★翻訳論(理論と実践)/批評理論  
★世界文学へのアプローチ/越境文学論 ★欧米の言語文化をバックグラウンドとした近現代日本文学研究(主として外国からの留学生)

また多彩な非常勤講師陣をそろえて、世界の文学や言語芸術の多様な側面をカバーするようつとめていきます。非常勤講師陣は毎年変わりますが、今年度は、高山宏(マニエリスム文学と現代)、佐藤良明(ビートとその流れ)、高尾千津子(東欧ユダヤ人の言語と文化)、巽孝之(サイエンス・フィクション研究)、中島由美(ことばと芸術)、安達まみ(英米の児童文学)、小沼純一(文学と音楽)の各氏にお願いしています。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

### ◆ 学士入学について

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/guidance/application2009.pdf> (PDF)

(出願期間は2008年6月30日(月)～7月9日(水)、試験は9月末を予定しています。詳しくは必ず教務係でご確認ください。)

### ◇ 大学院入試について

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/guidance/daigakuin.html>

(2009年度大学院入試要項は、9月1日より文学部事務部大学院係で配布されます。試験は2009年1月～2月の予定です。詳しくは必ず大学院係でご確認ください。)

### ◆ 外国の方のための入学案内は

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/oiss/>

不明の点については、現代文芸論研究室まで

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部 現代文芸論研究室

◆ 電話・ファックス: 03-5841-7955

◆ E-mail: [genbun@l.u-tokyo.ac.jp](mailto:genbun@l.u-tokyo.ac.jp)